



●映画美学校

脚本コース

第16期初等科(後期)

2026/10/29—2027/4/10

[募集要綱]



映画美学校はアテネ・フランセ文化センターとユーロスペースとの共同プロジェクトとして1997年にスタートし、2000年に特定非営利活動法人(NPO)となりました。映画美学校は、映画制作におけるプロダクション機能を持った映画学校です。これまでに受講生、修了生、講師により300本を越える長・中・短編映画がつくられ、多くの映画作家を輩出してまいりました。映画美学校の脚本コースは、日々映画がつくられている場所でのシナリオ講座です。

講座概要

講師はすべて現役で活躍する脚本家です。

業界の最前線で活躍する講師陣が考えた実践的なカリキュラムで、プロとして活躍するための実力を身につけることが出来ます。

どこにいても受講可能！オンライン講義を実施。

遠方からでも参加できるハイブリット型講義を実施。受講環境に応じて通学・オンラインをお選び頂けます。そのため、世界中から受講することが可能となりました。

クラス別講義は、水曜夜・木曜夜とお選びいただけます。

脚本コースでは、お忙しい方でも気軽に受講出来るよう、週1回のクラス別講義と、土曜日に月2回程度の共通講義を行います。クラス別講義はご都合に合わせて水曜夜と木曜夜から選べます。

2年間のカリキュラムを半年ごとに受講出来ます。

脚本コースでは、全2年間のカリキュラムを、初等科・高等科それぞれ前期と後期にわけ、半年ごとのタームで受講が出来ます。

■初等科では脚本の基礎を実践的に学びます。

初等科前期では、脚本の基礎となる理論を学び、5分および15分で完結するミニドラマを書く技術を習得します。これは、全てのドラマの基本となる型を体得する演習です。また、そのミニドラマを受講生自身の手で撮影する実習も行い、シナリオが実際に映像化される過程を学びます。初等科の後期では、前期で習得した基礎を踏まえ、30分のオリジナルドラマの企画開発を体験します。

■高等科はより専門性の高いカリキュラムになっています。

高等科はプロの脚本家になるためのより専門的なカリキュラムで構成されています。前期では60分尺のシナリオ、後期では90分程度のシナリオ執筆を行います。講義内で執筆された優秀作品は「シナリオ集」として刊行。プロで活躍するプロデューサー、映画監督が自由に閲覧出来るようにします(著作権の権利は責任を持って守ります)。

■ 共通講義では脚本家に必要な企画開発力と、シナリオにおける様々なスキルを学びます。

プロの脚本家として自立するためには、スポンサーやプロデューサー、監督からの様々な要求に柔軟に対応できる能力が必要となります。同時に、新たな企画を発信出来る企画開発能力が問われる時代になっています。共通講義では、「企画開発論」の講義の他、シナリオにおける様々なスキルを学んでいきます。

またレギュラー講師の他、最前線で活躍する作り手たちをゲストにお招きし、講義を行います。

今までのゲスト (一部／敬称略)



奥寺佐渡子『国宝』



大根仁『バクマン。』『『地面師たち』



喜安浩平『桐島、部活やめるってよ』



向井康介『ある男』『愚行録』

■ 脚本の執筆と映像化がリンクした画期的なカリキュラムです。

従来のシナリオ講座は、紙の上での指導に偏りがちでした。しかし、映画美学校の脚本コースでは、紙の上にしたものがどのように映像化されていくかということを受講生ひとりひとりが学べるカリキュラムになっています。

■ 優秀脚本の映像化プロジェクト！

今までに3作品が制作、劇場公開されています。

『ただいま、ジャクリーン』(監督：大九明子／脚本：村越繁／2013)

『イヌミチ』(監督：万田邦敏／脚本：伊藤理絵／2013)

『坂本君は見た目だけが真面目』(監督：大工原正樹／脚本：鳥井雅子／2014)



第1期初等科作品
『ただいま、ジャクリーン』

■ 修了生はプロで活躍中です。

鈴木洋介：ドラマ「絶対零度～情報犯罪緊急捜査～」(第1期修了生)

平谷悦郎：映画『うみべの女の子』(第1期修了生)

村越繁：アニメ「NINJA KAMUI (シリーズ構成)」(第1期修了生)

安永豊：アニメ「リヴァイアサン」(第1期修了生)

山田哲弥：アニメ「渡くんの××が崩壊寸前」(第1期修了生)

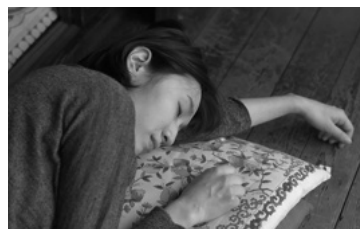
吉田香織：映画『殺人鬼を飼う女』(第2期修了生)

上村奈帆：映画『市子』(第4期修了生)

下田悠子：ドラマ「私をもらって」(第4期修了生)

弥重早希子：ドラマ「3000万」(第6期修了生)

椎名初衣：ドラマ「あなたの遺伝子をください」(第10期修了生) 他多数



2012年度高等科
コラボレーション作品
『イヌミチ』



第2期初等科作品
『坂本君は
見た目だけが真面目』

■ 高等科後期修了生を対象に「プロット・コンペティション」を開催

プロで活躍するプロデューサーに自身の企画をプレゼンする「プロット・コンペティション」を毎年開催。最優秀作品はそれぞれ映像化に向けて動いています。

2016年プロット・コンペティション最優秀作品『ばあちゃんロード』 上村奈帆 (第4期修了生)

DVD 発売&絶賛レンタル中！



主任講師

メッセージ

新しいエンターテインメントを目指す「現場」がここにある！

高橋洋（脚本家・映画監督）

映画には必ず主人公がいる。

映画に限らない、物語を扱うすべてのメディアにこれは当てはまる。主人公はたいがい、何か克服せねばならない「問題」を抱えている。僕たちの日常生活だってそうだ。みんな何かしら問題を抱えている。でも、他人が抱える問題に誰も興味を持つとはしない。自分のことで精一杯だ。

ところが不思議なことに、映画を見始めると、赤の他人の主人公が抱える「問題」がまるで我がことのように感じられる。

そして「問題」がついに克服される瞬間を見届けたいと思う。

これがエンターテインメントの骨法なのである。



この学校はみなさんと一緒に新しい時代のエンターテインメントを開発することを目指している。

魅力的な「問題」を発見して欲しい。

そしてそれをいかに観客に届けるか、講師たちと探求する「映画作りの現場」を体験して欲しい。

高橋洋 TAKAHASHI Hiroshi

1959年生まれ。早大シネマ研究会で『夜は千の眼を持つ』など8ミリ作品を発表。90年に森崎東監督のテレビ作品『離婚・恐婚・連婚』で脚本家デビュー。主な脚本作品に、中田秀夫監督『女優霊』(95)『リング』(98)『リング2』(99)、北川篤也監督『インフェルノ蹂躞』(97)、黒沢清監督『復讐 運命の訪問者』(96)『蛇の道』(98)『予兆 侵略する散歩者』(17)、佐々木浩久監督『発狂する唇』(99)『血を吸う宇宙』(01)、鶴田法男監督『リング0 パースデイ』(00)『おろち』(08)、三宅唱監督『Netflixオリジナルシリーズ 呪怨：呪いの家』(20)がある。近年は『恐怖』(10)『旧支配者のキャロル』(11)『霊的ポリシェヴィキ』(17)『ザ・ミソジニー』(22)など監督作が続く。フィクション・コース生とのコラボ作品『うそつきジャンヌ・ダルク』(21)『同志アナスタシア』(22)『女の決闘』(23)『白昼鬼話』(24)『アンティゴネイタス』(25)がオンライン公開中。著書に『映画の魔』(青土社)、稲生平太郎との共著『映画の生体解剖』(洋泉社)、脚本集『地獄は実在する』(幻戯書房)がある。



共通講義

土曜日に行われる共通講義（全10回）は、初等科、高等科共通の講義となります。

■「シナリオ指導実践編 ホン読みを通した実践的技術論」（高橋洋）

初等科前期で開発された15分のシナリオをテキストに、アクターズ・コース有志を招き「ホン読み」を行います。「ホン読み」とは、自分の書いた台詞・ト書きが他人の声で読み上げられる、それにジッと耳を傾けて映画の流れをチェックしてゆく、いわば「音」によるプレビューです。ホン読み後、少人数のグループに分かれて、ホン読みから見えたライトのポイントについて話し合い、発表して貰います。発表を受け、講師である僕からは「もし自分が演出するとしたら」という観点も含めた議論を展開し、具体的なケースに則した実践的な技術を磨きます。ここで培った経験をクラス講義での30分のシナリオ開発に生かしてゆくの
が目的です。高等科生および後期から参加した受講生には、企画をプレゼンして貰い、上記と同様の議論を行います。また、学外からゲストを招いての講義を行います。



木曜夜クラス担当講師メッセージ

宮下隼一（脚本家）



「こんにちは」「こんばんは」など、
気も利いていなければ格好よくもおしゃれでもないセリフが、
あるべき時にあるべき場所であるべき人物の口から発せられると、
観る人の胸をとてつもなく痛く切なくそして楽しく射抜くことがあります。
シナリオが『建築設計図』にたとえられる所以です。

ではそんなシナリオは、誰のために、なんのために書かれるのか？
講義はそこから始まります。

その答えを知ってなお、書きたい、書きたいことはあるのに書き方がわからない、そんなあなたを待っています。

宮下隼一 MIYASHITA Junichi

1956年長野県生まれ。今村昌平監督が設立した横浜放送映画専門学院（現日本映画大学）の一期生。卒業後TV映画の助監督として活動後、伝手を頼って石原プロモーションに複数のプロットを持ち込み、そのうちの一本を同社制作の新番組「西部警察」第七話として自らシナリオ化、ライターデビューする。日本を代表するハードボイルド映画脚本家、故永原秀一氏に師事。以降、石原プロ作品のほか、「特捜最前線」など刑事ものやサスペンスものを多数執筆、「仮面ライダーブラック」から特撮作品にも関わり、「キャッツアイ」からアニメーション、「バイオハザード」などゲーム作品のシナリオも執筆する。近年は、小説や演劇、イベント脚本も執筆している。

【代表作】<テレビ>「西部警察PartⅠ～Ⅲ」（79～84）、「特捜最前線」（77～87）、「仮面ライダーブラック」（88～89）、「特捜エクシードラフト」（92～93）、「ブルースワット」（94～95）、「忍風戦隊ハリケンジャー」（02～03）ほか <映画>横山博人監督『恋はいつもアモンドピンク』（88）、細野辰興監督『激走トラックer伝説』（91）『犯人（ホシ）に願いを』（95）、鶴田法男監督『ゴト師株式会社Ⅱ』（94）ほか <アニメ>「キャッツ・アイ」（83～85）、「ルパン三世PartⅢ」（84～85）、「名探偵コナン」（96～）、「幕末機関説いろはにほへと」（06～07）、「キングダム」（20～）ほか <ゲーム>「バイオハザードCODE:Veronica」、「探偵神宮寺三郎KIND OF BLUE」ほか <小説（電子出版）>「湾岸蒼国記」、「餓（かつ）える心臓の往くところ」ほか <演劇>「爪とツメ」ほか <イベント>ユニバーサルスタジオジャパン「名探偵コナン」エリアの全シナリオ、日本国内およびアジア圏での「コナン脱出」シリーズの全シナリオほか

〔脚本コース初等科 木曜夜（宮下）クラスの受講必要条件〕

- ・提出原稿はWordファイル使用可能なワープロソフトを使用のこと。手書き不可
- ・インターネット環境があること。メールとクラウドを使います。
- ・開講前に、「事前課題」（詳細未定、初回講義で講評）の提出をしてもらいます。

木曜夜クラス(宮下準一クラス)カリキュラムについて

毎週木曜 19:00～21:30 (共通講義 土曜日 13:00～16:30)

回数	日付	講義	
1	10/29	前期の復習と後期の概略説明&講義	企画想定シナリオ(地上波・配信30分枠) ネタ・アイデア
2	11/5	課題の講評&講義	同上改稿
3	11/12	同上&講義	同上改稿
4	11/19	同上&講義	同上プロット
5	11/26	課題のプロット講評&講義	同上改稿
6	12/3	同上講評&講義	同上シナリオ初稿
	12/5(土)	※共通講義1	
7	12/10	同上シナリオ講評&講義	同上改稿
	12/12(土)	※共通講義2	
8	12/17	課題講評&講義	同上改稿
	12/19(土)	※共通講義3	
9	12/24	シナリオ各自プレゼン&講評 宮下選発表	30分シナリオ ネット・アイデア
10	1/7	課題講評&講義	同上改稿
	1/9(土)	※共通講義4	
11	1/14	同上&講義	同上改稿
	1/16(土)	※共通講義5	
12	1/21	同上&講義	同上プロット
13	1/28	プロット講評&講義	同上改稿
14	2/4	同上&講義	同上改稿
	2/13(土)	※共通講義6	
15	2/18	同上講評&講義	同上シナリオ初稿
16	2/25	同上シナリオ講評&講義	同上改稿
	2/27(土)	※共通講義7	
17	3/4	同上講評&講義	同上改稿
	3/6(土)	※共通講義8	
18	3/11	同上講評&講義	同上改稿
19	3/18	同上講評&講義	同上改稿
	3/20(土)	※共通講義9	
	3/23(火)	宮下クラス30分課題締め切り(講義なし・メールでの提出)	
20	3/25	提出稿講評 まとめ プロに向けて	
	4/10(土)	※共通講義10・30分課題講評会	

※12/31、2/11は講義無し

※「共通講義10・30分課題講評会」は、両クラス担当講師及び高橋洋主任講師の3名による優秀シナリオの選考・講評会を予定しております。

水曜夜クラス担当講師メッセージ

佐藤佐吉（脚本家・映画監督・俳優）



僕は23歳まで、せいぜい「映画が少し好き」という程度の青年でした。レンタルビデオ全盛期を迎え、名前も知らなかった映画たちから強烈な洗礼を受ける一方で、今のようにSNSがなかった時代、感想や興奮を共有できる相手を探していました。そんな中、新聞で藤本義一さん主催の「心斎橋大学」という構成作家・脚本家養成講座の存在を知り、そこで初めて「脚本」という表現に出会いました。この出会いが、映画との距離を決定的に縮めたのだと思います。

仕事を続けながら一年間真面目に通い、地方ドラマ脚本の奨励賞をいただきました。講座はもう一年残っていましたが、「自分はすぐに書き手にな

れる」と思い込み、会社を辞めて上京しました。しかし、実際にデビューできたのはそこから10年後のことです。振り返れば、実力も覚悟も、まったく足りていなかったのだと思います。

プロを目指す道は、決して甘くありません。ただし、「必ず面白い脚本を書く」という覚悟と、諦めない粘り強ささえあれば、道が完全に閉ざされることもない。これは綺麗事ではなく、僕自身が遠回りの末に実感していることです。僕自身、いまなお修行の途中にいます。

同じ場所で悩み、もがきながら、一緒に前へ進んでいけたらと思っています。

佐藤佐吉 SATO Sakichi

1964年生まれ。大阪府出身。大学卒業後、キネマ旬報社及び西友映画事業部に所属し、東京国際映画祭ニッポンシネマナウ部門、サンダンス映画祭in東京を企画するなど映像作家発掘に尽力する一方で自身も創作活動を開始。99年犬童一心監督『金髪の草原』にて脚本家デビュー。ゆうばり国際映画祭ヤングシネマグランプリ受賞。以後『オー!マイキー』(05~10/TV)三池崇史監督『殺し屋1』(01)など話題作の脚本を手がけ、カンヌ国際映画祭に招待された脚本作である三池崇史監督『極道恐怖大劇場 牛頭 GOZU』(03)ではブリュッセル国際映画祭最優秀脚本賞を受賞。05年浅野忠信・哀川翔主演『東京ゾンビ』で劇場長編映画監督デビュー。坂本龍一総合監修『にほんのうた 春の小川』(11)ではオーバーハウゼン国際短編映画祭にて審査員特別賞を受賞。最近では朗読劇『湯布院奇行』(主演:成田凌、黒木華、演出:土井裕泰/21)、NHK満島ひかり主演『シリーズ江戸川乱歩短編集』、池松壮亮主演『シリーズ横溝正史短編集』の脚本や演出を手掛けるほか、役者としてもクエンティン・タランティーノ監督『キル・ビル』(03)、黒沢清監督『スパイの妻』(20)などの映像作品にも出演。2026年12月監督作品『薔薇の鎖』(主演:丸山隆平、沢尻エリカ)公開予定。

〔脚本コース初等科 水曜夜(佐藤)クラスの受講必要条件〕

- ・提出原稿はWordファイル使用可能なワープロソフトを使用のこと。手書き不可
- ・インターネット環境があること。メールとクラウドを使います。

水曜夜クラス(佐藤佐吉クラス)カリキュラムについて

毎週水曜 19:00～21:30 (共通講義 土曜日 13:00～16:30)

回数	日付	講義	
1	11/4	後期講義概要	模擬シナリオ
2	11/11	模擬シナリオ講評添削	5分作品プロット
3	11/18	5分作品プロット講評添削	5分作品シナリオ
4	11/25	5分作品シナリオ講評添削	15分作品プロット
5	12/2	15分作品プロット講評添削	15分作品プロット&シナリオ
	12/5(土)	※共通講義1	
6	12/9	15分作品プロット&シナリオ講評添削	15分作品シナリオ
	12/12(土)	※共通講義2	
7	12/16	15分作品シナリオ講評添削	30分作品プロット
	12/19(土)	※共通講義3	
8	12/23	30分作品集中講義1 課題講評添削	30分作品プロット
9	1/6	30分作品集中講義2 課題講評添削	30分作品プロット
	1/9(土)	※共通講義4	
10	1/13	30分作品集中講義3 課題講評添削	30分作品プロットorシナリオ
	1/16(土)	※共通講義5	
11	1/20	30分作品集中講義4 課題講評添削	30分作品プロットorシナリオ
12	1/27	30分作品集中講義5 課題講評添削	30分作品プロットorシナリオ
13	2/3	30分作品集中講義6 課題講評添削	30分作品シナリオ
14	2/10	30分作品集中講義7 課題講評添削	30分作品シナリオ
	2/13(土)	※共通講義6	
15	2/17	30分作品集中講義8 課題講評添削	30分作品シナリオ
16	2/24	30分作品集中講義9 課題講評添削	30分作品シナリオ
	2/27(土)	※共通講義7	
17	3/3	30分作品集中講義10 課題講評添削	30分作品シナリオ
	3/6(土)	※共通講義8	
18	3/10	30分作品集中講義11 課題講評添削	30分作品シナリオ
19	3/17	30分作品集中講義12 課題講評添削	30分作品シナリオ
	3/20(土)	※共通講義9	
	3/22(月・祝)	佐藤クラス30分課題締め切り(講義なし・メールでの提出)	
20	3/24	シナリオ研究及び60分シナリオに向けて	
	4/10(土)	※共通講義10・30分課題講評会	

※12/30は講義無し

※「共通講義10・30分課題講評会」は、両クラス担当講師及び高橋洋主任講師の3名による優秀シナリオの選考・講評会を予定しております。

募集要項

脚本コース
第16期初等科(後期)
募集要項

■受講期間：木曜夜クラス：2026年10月29日(木)から2027年4月10日(土)
水曜夜クラス：2026年11月4日(水)から2027年4月10日(土)

■受講資格：18才以上(学歴、経験の有無は問いません)
＜オンライン講義での受講条件＞
※WEB上のオンライン会議サービスを使用するため、Wi-Fi環境を推奨します。
※DropboxやGoogleDriveなどのクラウドを使用することがあります。

■募集人員：木曜夜クラス36名／水曜夜クラス36名(最低開講人数：各クラス19名)

■講義日程：木曜夜クラス19:00～21:30、水曜夜クラス19:00～21:30、共通講義を土曜日13:00～16:30に行います。
※講師の都合により講義日程や講師に変更の可能性があります。ご了承の上お申込み下さい。
※期の途中でのクラス変更は出来ませんのでご注意ください。

■講義回数・受講料：全30回／135,000円(保険料込/税込)※分割でのお支払いもごさいます。

■入学登録料：10,000円(税込)※映画美学校通年講座をはじめて受講される方のみ

※受講料の分割払いでのお支払いにつきまして
受講料135,000円(映画美学校を初めて受講される方は145,000円)+分割手数料1,500円
69,000円を前払い(映画美学校を初めて受講される方は79,000円) 残額67,500円が分割払いになります

お支払回数	金利	合計金額	前払金	残額	分割払利息	分割支払金合計	毎月の引き落とし金額
5	4.20%	135,000	67,500	67,500	2,835	70,335	14,067

(単位：円/税込)

■教室：オンラインと登校のハイブリット型
登校の場合：映画美学校(渋谷) 渋谷区円山町1-5 KINOHAUS B1F

申し込みはこちら



■受付期間：2026年10月16日(金)20:00まで
(尚、締切日以前に定員に達した場合は申込受付を締め切らせて頂きます)

■申込方法：オンラインによる申込
映画美学校ホームページよりお申し込みください。簡単な選考のうえ、合格者には、合格通知と受講手続きのご案内を、申込受理から一週間以内にメールまたは郵送いたします。

■受講手続：合格通知を受領後、案内に従い、指定の期日までに、指定の銀行口座にお振込下さい。入金が確認された時点で申込み受付完了となります。
※一旦納入された受講料等は原則として返金できません。

映画美学校約款

■ 受講上のご注意

- ◎ 講義の写真撮影、録画、録音はご遠慮ください。
- ◎ 持病のある方、あるいは体調不良になられた方は事務局にご相談下さい。
- ◎ 講義の際に使われる各種の機材・備品などの取り扱いは十分に注意して下さい。機材や備品を大切にすることは映画づくりの基本です。
- ◎ 館内での私物の管理は、各自で責任を持って行って下さい。賠償の責は負いかねます。また、受講生本人の不注意による事故や物的損害に対しても同様です。
- ◎ 当校は現役の映画人に講師をお願いしておりますので、講師のご都合またはやむを得ぬ事由により、講師やカリキュラムを変更することがあります。また、交通機関の混乱や、天災地変などやむを得ない事情で、カリキュラムを変更する事があります。
- ◎ 各コースのカリキュラムは、講師陣により日々検討を重ねております。そのため、要項に記載のカリキュラムが若干変更・修正される可能性もございます。変更・修正の際は理由を説明いたします。
- ◎ 急なカリキュラムの変更等、当校より緊急連絡をさせていただく場合がございます。ご登録の氏名・住所・連絡先等に変更があった場合は、すみやかに事務局にお知らせ下さい。
- ◎ 受講希望者が一定の人数に達しないクラスは、開講を見合わせる場合もあります。

■ 受講取消の扱い

- ◎ いったん納入した受講料は、原則としてご返金できません。各講座の予算は講師陣と事務局が協議して慎重に確定いたしますので、その後のキャンセルはカリキュラムの実現に重大な支障を来します。ただ、病気や転勤など、当校がやむを得ないと認めた場合は、開講日以前であれば下記の計算方法でご返金いたします。その場合、医師による診断書や勤務先の辞令（コピー可）など、受講不可能となった事由を証明する書類をご提出下さい。

■ 受講開始日より起算した返金額

30日前まで：全額の90%

29日前～14日前まで：全額の75%

13日前～7日前まで：全額の50%

6日前～1日前：全額の25%

なお、講義開始後のお申し出は、お受けできません。

■ 安全面について

- ◎ 映画の撮影時には、スタッフ、キャストともに目の前のことに集中するので、事故が起こりやすいものです。事務局から配布される注意事項をよく読んで厳守し、撮影にかかわる人たち全員が安全面に配慮することで、絶対に事故を防ぐようにして下さい。将来、講座修了後も、映画を制作し続ける限り、一番大切なことです。なお、注意事項に書かれていないことは、遠慮なく事務局にご相談下さい。
- ◎ 非常口、避難通路などは事前にご確認下さい。災害が発生した場合は、必ず係員の指示に従って行動して下さい。

■ 著作権について

- ◎ 講義内で行われる個人課題やドキュメンタリー・ワークショップの編集講評の対象となった作品を除き、本校のカリキュラムの一環として制作された画像、動画、サウンド等の著作権は基本的に映画美学校に帰属します。従って、それらの全部又は一部および、講義風景等を録画・録音したものの全部又は一部を、本校の広報・業績・紹介目的のため、任意かつ無償で利用することがあります。その際、著作者の氏名の表示を省略することもあります。諸般の事情により支障のある方は、開講してなるべく早い時期に事務局にご相談下さい。なお、利用にあたっては、第三者の著作権、商標、名誉、信用、肖像権その他の権利を侵害しないように細心の注意を払います。

■ お申込み・お問合せ

特定非営利活動法人 **映画美学校**

〒150-0044

東京都渋谷区円山町1-5 KINOHAUS B1F
(渋谷・文化村前〈松濤郵便局前〉交差点左折)

TEL 03-5459-1850 FAX 03-3464-5507

<http://www.eigabigakkou.com>

受付時間(月～土) 12:00～20:00

